

2012(平成24)12月  
長崎

# 文化

culture

## 平戸焼水柱 将軍家へ



長崎陶磁に関する最新の調査成果が発表された東洋陶磁学会

## 佐賀県立九州陶磁文化館特別学芸顧問 大橋氏が報告

佐賀県立九州陶磁文化館特別学芸顧問 大橋氏は「水柱の細工は有田焼にはみられない」と指摘し、「水柱や香炉など細工物は平戸藩が献上していた」との見方を示した。このほか、現川焼、長与焼などの発掘調査結果や、海外へ輸出された長崎陶磁の所在状況と流通ルートに関する発表があつた。

大橋氏によると、将軍家が使用していた磁器の水柱には、ふたを固定する特殊な細工が施されていた。近年、東京の平戸藩江戸屋敷跡で17世紀後半の平戸焼が多数出土し、この中に将軍家用品と同型で同じ細工を施した水柱の破片が見つかった。将軍家に定期献上された磁器は佐賀藩の鍋島焼（有田焼）と平戸藩の平戸焼がある。鍋島焼は鉢、皿、茶わんなどが献上されたが、平戸焼の種類は不明だつた。

と会員約110人が参加した。佐賀県立九州陶磁文化館特別学芸顧問の大橋康二氏は、平戸藩が三川内で製造した平戸焼の水柱（すいちゅう）や香炉を徳川将軍家へ献上していた可能性を発表した。

## 「長崎陶磁」で最新調査成果

### 東洋陶磁学会が大会

東洋陶磁学会（今井敦委員長、新の調査成果が報告された。約700人）の第40回大会が11月23日から3日間、長崎市立山1丁目の長崎歴史文化博物館で開かれた。江戸期の本県で製造された「長崎陶磁」について最

も遅く1973年に設立された東洋陶磁学会の大会が本県で開催されることは初めて。三川内焼、波佐見焼、龜山焼など海外にも流通した長崎陶磁について知ろう

教育社会学者の多賀太閏西大教授が「教育する父親の時代？」と題し東京都内で講演。「競争社会の中で子どもの中学受験に積極的に関与する父親が増えたが、母親の負担軽減にはつながっていない」と述べた。

多賀太・関西大教授が講演 明治期から「良妻賢母」が担ってきた家庭教育に戰後、父親の関与を求める声が次第に強まる流れを紹介。1970年代に非行が問題化し、人間形成期の父親不在が批判されたのに続き、90年代に入ると、男女

共同参画や少子化対策の文脈で父親の育児参加が叫ばれ始めたと説明した。その後、競争社会の本格化を受け、家族階層の上昇や下降リスク回避の戦略として中学受験を重視する風潮が定着。マスコミの影響もあり、塾の送迎や学羽翼指導、学校情報の収集に積極的な状況にはないと強調した。

## 父の教育熱 母助けず

### 多賀太・関西大教授が講演

せず、自然体で生きる志乃子の人間性は、善きつながりを呼び寄せる。宮本さんも更年期障害の経験があるという。「50代は精神的、肉体的にネガティブになる。でもこの小説を読み、50歳は人生の始まりだと思ってくれたらうれしいです」

「水のかたち」（上下巻）

## 50代迎

せようと取り組んでいます。そうした施設の一つ、大阪のアトリエインカーブ理事長の今中博之さんは著書「観点変更」で「生きがい」としての制作活動と「就労」としての制作活動、二項が対立することなく共存するのが望ましいとしている。

長崎の作家の商品を見たい。生きがい、就労、ファンション性も兼ね備えて一欲張りだろうか。（関根めぐみ）

## 観覽車

イン性の高い商品に仕上げ市場に流通させようとしている。そうした施設の一つ、大阪のアトリエインカーブ理事長の今中博之さんは著書「観点変更」で「生きがい」としての制作活動と「就労」としての制作活動、二項が対立することなく共存するのが望ましいとしている。

長崎の作家の商品を見たい。生きがい、就労、ファンション性も兼ね備えて一欲張りだろうか。（関根めぐみ）

長崎の作家の商品を見たい。生きがい、就労、ファンション性も兼ね備えて一欲張りだろうか。（関根めぐみ）